

大通りは大にぎわい

冬は寒いし、雪道は歩きにくいし、あまり外に出たくないなあ…という人も多いかも知れません。そんな中、冬ならではのイベントでにぎわう大通公園で、夕暮れ時にひときわにぎわう場所がありました。

そこは、プラタナスの木の上…ムクドリのねぐらになっていたのです。始めに気づいたとき、暗闇の中で聞こえてきた鳴き声をたよりに、頭上を見回したのですがプラタナスの方からだということしかわかりませんでした。次の週に同じ場所を通りかかると、上部の枝には葉と見まちがえるくらいに小さな黒い影がたくさん見え、1ブロック離れた場所からも鳴き声がわかるほどでした。しかし、このときもシルエットしか見えず、一緒にいた活動センターのスタッフと話題にしているうちにだんだん「なんとかして正体をつきとめたい」気持ちになってきました。

そして、木の前に張り込むこと3回目、やっと正体がムクドリであることがわかったのです。観察では、ほぼ4時(日没時刻)にあちこちの方角から群れが集まってきて、10分もすると木の上はムクドリが鈴なりにになりました。しかし、大きな木がたくさんある大通公園のなかでもどうして特定の木にだけ集まるのでしょうか？

15年前からムクドリのねぐら形成行動を継続して観察している竹中万紀子さん(鳥類生態学)にお

聞きしたところ、例年は広告塔の裏側などを主なねぐらにしているのに12月に入っても木にねぐらをつくっているのは異例のことだそうです。また、ねぐらに適した木の特徴として、上部に細い枝がたくさんあることがポイントになっているということでした。

ムクドリはもともと北海道で越冬していませんでしたが、冬場のエサがたくさんとれるようになったので越冬できるようになったと考えられています。鳥類がその地域で越冬できるかどうかの1つの大きなカギは単に「寒さに強い・弱い」ではなく、寒さで奪われる体温＝エネルギーを補うだけのエサが充分にあるかどうか、ということだそうです。ムクドリの越冬が観察され始めた年代と、街路樹として植えられたナナカマドが成長して実をたくさんつけはじめた時期が一致しているそうです。都心でも調達できるナナカマドの実がムクドリの越冬生活を支えていることは、フンに含まれるナナカマドの果実の皮でねぐらにした木の根元が赤くなっていることでも一目瞭然でした(写真3)。

これから例年通り雪が降って寒くなると、このムクドリたちがどう動くのか、竹中さん達も興味深く観察しているとのことでした。さあ、冬の街でもバードウォッチング！



写真1▲午後4時前。まだムクドリは1羽もきていません。



写真2▲午後4時くらい～4時10分くらいの間に、一気に集まってくるムクドリ。



写真3▲木の下はナナカマドの皮で赤くなっています。

たのしかったね。また来てね !!

博物館活動センター講演会 (共催:恐竜倶楽部北海道支部)

北海道の恐竜 ~白亜紀の大型せきつい動物~ 12月6日

お話し 早川 浩司さん (クレイド古生物学研究所研究員、恐竜倶楽部北海道支部長、元三笠市立博物館主任学芸員)

小学生以下の子供さんから中高生、大学生、中高校の方々まで、幅広い年齢の方々が聞きに来てくださいました。会場は超満員!!みんなの熱気で暖房がいらないくらいでした。

早川さんのお話しがはじまり、スクリーンに図が写ると会場内の子供から「モササウルスだ!」という声があがったり、早川さんが持参した未公開の化石(実物)にもさわることができたりと、とても楽しく和やかな雰囲気での講演会でした。



さっぽろ水草採物帳

博物館活動センターで行っている水草調査の中から、札幌市内の河川や沼でみられる水草を毎月1~2種紹介します。

④ おめでたい水草

おめでたい動植物と言って何が思い浮かびますか? 今回紹介する「エビモ」にも長寿を表すおめでたい動物=エビの名前がついています。エビに似ている部分があるのでそう呼ばれるようになったといわれていますが、その似ている部分とは下のうちどこでしょうか?

(右図)

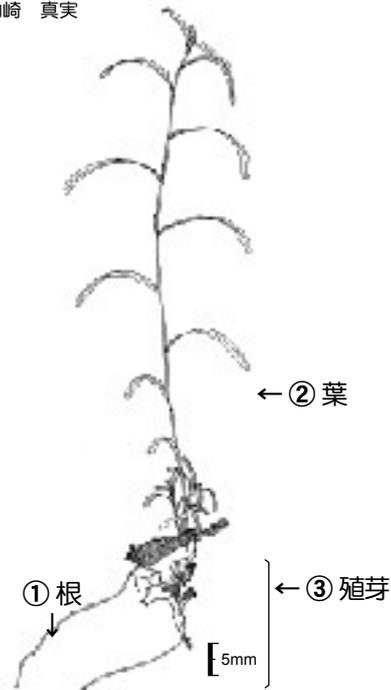
- ① 根... エビのヒゲのように長くて細いから。
- ② 葉... 曲がり方がエビの形に似ているから。
- ③ 殖芽(しょくが)... エビの体のように固いから。

(答えは右下)

③の「殖芽」は生育条件が悪い時期を耐えて条件がよくなるとまた発芽してくる能力をもつ水草特有の器官です。昨年の「水草の浮いてる生活」展で展示した殖芽を観察していると、始めに固くてとがった葉が2枚できました。「なんだろう?」と思って見ていると、つづいて出てきた新しい葉はセロファン紙のような薄っぺらな、普通に見られるエビモの葉でした。

アサガオなどタネから最初に出てくる葉(ふたば)の形は成長したときと違うように、殖芽からの発芽も始めは違う形をしているんですね。それにしても、2枚の固くとがった葉をつけた殖芽のほうがエビの姿に似ているように思えました。

エビモ:
室内で殖芽から発芽。
(2003年7月モエシ沼にて採取。2004年1月10日の状態)
夏期の葉は縁のギザギザがはっきりしてねじれる。
スケッチ:山崎 真実



答え: ②

2003年度 博物館実習の記憶

今年度は酪農学園大学、武蔵女子短期大学、北海道教育大学札幌校のみなさんが実習に来ました。実習メニューはモエレ沼での植物採集・水質調査、化石のクリーニング・レプリカ作り、資料整理、展示シナリオ作成など。実習生にとって日頃体験できない新鮮なことばかりだったようです。実習生の感想の一部を紹介します。ある実習生の感想にも「活動センターの活動は、広く市民には知られていないのではないのでしょうか。学芸員の卵を活用して、PRして行って下さい。」とありましたが…みなさん、これからもよろしく！

博物館実習とは？～博物館の現場で学芸員の仕事を実際に経験する、学芸員の資格をとるための必修科目です。

●札幌市博物館建設計画では、古澤さんの計画を聞いているうちに夢がふくらみました。自分で考えてみるととてもワクワクして、色々な案がどんどん湧いてきたので学芸員という仕事は夢がある仕事だと思いました。

(広部 美也子)



▲植物採集の実習中。

●多くの博物館がよいものを作るためにはそれなりに必要なものがあると思う。ここでの展示も次のもののがはやく見たいと思った。

(吉竹 瑛美)



▲自然の落とし物を集めて、それらを紹介する壁新聞をつくりました。ドングリ、落葉、カタツムリのぬげがらなどなど…。



▲公園だけではなく、沼も見てみよう！

●モエレ沼公園に植物採集と水質調査に行きました。植物採集は手間のかかる地道な作業だと感じました。博物館で今私たちがやっているような作業は今すぐ役立つものもありますが、この後、資料の収集を続け、データとなる何十年後の活躍につながるんだと感じました。小さな作業をつづけて後世につなげていくのが、学芸員や博物館の仕事の一つなんだと感じました。

(白佐 真莉子)



▲ホコリタケ属？

●博物館建設のソフト面、また学芸員としての建設への関わり方、博物館のオリジナリティーなど、普通の博物館実習では勉強できないことだった。また、展示に関しても「狭い」なら「狭い」ということを最大限利用すること、空間を利用することを見ることができた。「見る、触れる、匂いをかぐ、つくる」それに、「たべる」があればもっとよいと思った。(上山 剛司)

●ただ自分の好きなものを並べて展示するだけでは、ただの物にすぎず、それを見てくれる人に何を伝えたいのかを明確にするのがとても大切なことなのだと知りました。そこに、博物館のある意味があると思います。

植物採集では珍しい植物を一生懸命探していましたが、資料収集活動の目的は『珍しい物』を求めるのではなく、『ありのままの自然』を伝えるためだと山崎さんがおっしゃっていたのがとても心に響きました。

(藤原 奈保子)



▲西岡水源池ではキノコがいろいろありました。実習生もキノコにくぎづけ！



▲コケの柔らかさにおどろきました。

講座・体験学習会・企画展のお知らせ

冬の観察会「雪道さんぽ」

雪の中だからこそ見えるものがあります。歩きながら、植物を使って雪に絵を描いたり、樹木の冬芽や動物たちの足跡を探ってみよう。

日時 3月20日(土・祝) 午前10時～12時

会場 円山(中央区) ※円山動物園正門前に集合

対象 小学4年生～中学生 **費用** 無料 **定員** 20名(多数時抽選)

講師 山崎 真実(札幌市博物館活動センター学芸員)

【申し込み方法】

参加する行事名・住所・参加する方全員の氏名・年齢・電話番号・FAX番号を書いて、3月10日(水)(必着)までに博物館活動センターへハガキまたはファクス、Eメールmuseum@city.sapporo.jpにて申込。
ホームページ<http://www.city.sapporo.jp/museum/> 行事案内のページからも申し込みできます。



夜間講座 * * *

「自然環境を読む」(3回シリーズ)

スケールが大きすぎて普段は目で見て実感することができない、つかみ所がないと思われがちな自然環境。この講座では、宇宙から足元まで一宇宙、世界、北海道、札幌一の自然環境を読み解く技やその経験をお話します。衛星写真や航空写真、天気図、地形図などの資料の読み方・活用方法を知れば、自然についてもっと広い視野がもてることでしょう！

【参加方法】 申込不要です。直接会場へお越しください。 **【対象】** 一般

第1回 宇宙から地球を「読む」

第2回 札幌の空から環境を「読む」

第3回 札幌の自然から地球の歴史を「読む」

■日時：2004年2月18日・25日・3月3日(いずれも水曜日)18:30～20:00

■講師：藤田 郁男さん(北海道環境カウンセラー協会会長)

■会場：札幌市博物館活動センター講義室(中央区北1西9丁目ケイプラザ5階)

展示が始まるよ!

第1回 自然探求サポート事業成果報告展示

「さっぽろの自然めつけ!」展

2004年1月31日(土)～3月20日(土・祝)

主催：自然探求サポート事業参加者、サポート研究者、札幌市博物館活動センター

会場：札幌市博物館活動センター展示室

自分たちの疑問についてそれぞれ近所の自然をフィールドにして調査しました。

3組のそれぞれのテーマについていっしょに成果発表展示をします。

●「恐竜の色は適当である。」という情報がきっかけで疑問をもった小学生2人組。「化石とは何か」を野外観察し、「化石づくり」にチャレンジ!!さて、どうなった?

●水生昆虫とその生息環境との関係について知りたい、という小中学生3人組。自宅前の星置川で水生昆虫の採集と水質調査を行った結果をまとめる。

●「森の下には何があって、どうなっているの?」という疑問に取り組んだ小学6年生。一握りの土からダニが24種類も発見されたり、針葉樹林と広葉樹林の下では違う生き物がいたり、ミクロの世界に驚きがたくさん。

発表会もやるよ!

第1回 自然探求サポート事業成果報告発表会 3月6日(土) 10:00から12:00 会場：札幌市博物館活動センター講義室

展示を見るだけではわからないことも聞けるかも知れません。お友達をさそってぜひ聞きに来てね!

参加者たちは今、発表の準備の真っ最中。

編集後記

来館者数 **22,598**人 (2003年12月末現在)

「キック、キック、トントン」の季節がやってきましたね!雪のない地方で育ったので、小学校の頃読んだ宮沢賢治の『ゆきわたり』で子供達が歩く音が実感できませんでした。今は、新雪を踏みつけるとキュッとしまる雪の感触が「キック、キック、トントン」なのかな?と思いながら、横道にそれて、だれも歩いていない道を歩きたくなってしまうのです。(ま)



さっぽろ市
03-F09-03-381
15-3-98